

第一印象は、はにかむ笑顔がかわいらしいごく普通の女子高生。しかし、練習に入ったとたんその印象が変わる。表情が引き締まり弓道場内に心地よい緊張感が漂う。凜とした佇まいにこちらの身も引き締まる。彼女が8月に開催される国体に出場するアスリートであると同時に武芸の達人であることを実感した瞬間である。



入部後の彼女は順調に成長していく。迎えた今年7月、久留米で行われた令和4年度国体福岡県代表選考会に入賞。その後入賞者6人から4人に絞られる最終選考でも勝ち残り、見事福岡県代表の座を勝ち取った。福岡県の高女子弓道競技者数は約1800人と、そこから約450倍もの競争率を勝ち抜いたことになる。

狭き門をくぐり抜け、見事国体出場を果たした今川さんに弓道で成果を出せた理由を聞いたところ「がむしやりにやるのではなく、スポーツ科学を取り入れています」と言う。上手いかない時は原因を分析し、指をこうひねればこう軌道が変わるはず、という具合に仮説を立てて試行錯誤を繰り返してきた。理論派の今川さんの好きな教科は数学。理由は、解けたときの達成感が大きいから。数学と弓道は似ていると言う。弓道では、手持ちの矢が4本しかないため一矢ごとに最適解を選ぶ必要がある。その思考法が、論理的に解いていく数学に通ずるのだ。

彼女の強みを顧問の村井先生に聞いてみると、統率力があり、人から慕われる彼女の人柄にあると言う。村井先生によると、弓道は生活態度が成績に反映するのだそう。なぜか小さい頃から人の中心にいた。上野小学校では児童会長、赤池中学校ではバスケット部のキャプテンと生徒会長だった。鞍手高校では弓道部の男女含めた総部長と、体育祭のマスのゲームのリーダーを努める生粋のリーダーである。弓道部の友人も「皆のために率先して自己犠牲を払える人」頼れる存在」と異口同音に言う。取材で接していても、こちらの質問の意図を汲もうとする姿勢と的確な受け答えに、彼女の誠実で聡明な人柄が伝わってきた。

ある。弓道部の友人も「皆のために率先して自己犠牲を払える人」頼れる存在」と異口同音に言う。取材で接していても、こちらの質問の意図を汲もうとする姿勢と的確な受け答えに、彼女の誠実で聡明な人柄が伝わってきた。

弓道部に入って良かったことは、たくさんいる先輩や後輩、仲間ができたことだと言う。そんな彼女が国体に出る。今度はみんなが彼女を、



→弓道の達人の今川さんだが、普段はごく普通の女子高生。彼女がこうみえて天然で「一番ノリがいいんです」とは弓道部の友人水津亜優さんの証言。

✓助ける番だ。がんばれくるみ、負けるなくるみ、私たちが付いているー迎えた8月20日、火の国熊本での九州ブロック国体初日。九州8県中、上位3県が9月の栃木国体に進むことになる。近似的を狙う「近筋」で2位の好位置に付ける。しかし、翌日の21日、遠的を狙う「遠的」で5位。総合順位4位となり、惜しくも栃木行きはならなかった。しかし、強豪としてのぎを削り、あと二歩まで迫った。大学でも弓道が続けたいと言う今川さん。彼女の弓「道」はまだまた続く。



「弓入魂」 Kurumi Imagawa 今川くるみ

平成16年生まれ18歳。鞍手高校入学と同時に弓道始める。令和4年度国体弓道少年女子部福岡県代表。



栗原悠人

Yuto Kurihara

「今、ここで 限界を超える」

平成19年生まれの15歳。第49回全日本中学校陸上競技選手権大会400m走福岡県代表。赤池中学校入学時に陸上部に入部し、陸上競技を始める。400m走に本格的に取り組み出してわずか3か月で全国行きの切符を手にした俊才。

あれよあれよという間に400m走の全国大会に福岡県代表として出場することになった。本格的に400m走に取り組み始めて僅か3か月しか経っていなかった。

走るの好きだったが、小学校のころはランニングをしていくくらいで特に運動をしていないわけではなかった。赤池中学校入学と同時に陸上部に入部し、本格的に陸上競技を始めた。練習は中学校の陸上部以外にも、田川陸上クラブで行う他、父親の幸治さんと筑豊緑地で自主練を行っている。幸治さん自身は陸上競技の経験はないものの、子供の頃から大学までサッカーをプレーした元アスリート。運動に対する造詣は深く、練習方法を本やネットで調べ、練習メニューを考案してくれると言う。

豊富な練習量と身体の成長が相まってタイムは順調に伸びていき、去年から素質を見抜いた当時の顧問の先生や田川陸上クラブのコーチから、400m走のレースに出ることを勧められるようになった。そして今年の4月から本格的に400m走に取り組みようになるとすぐに結果を出す。6月の大会で全国大会参加標準記録を軽く突破する自己ベスト51秒22を叩き出す。7月の大会で、第49回全日本中学校陸上競技選手権大会出場決定。平成18年に市町村合併で福智町が誕生して以来、中学生が陸上競技で全国大会に出場するのは初の快挙であった。エリートランナーの栗原君。その強さ

の秘密は「一体どこにあるのか？顧問の遠藤先生に聞いてみた。遠藤先生曰く、「優れた素質」はもちろんのこと、「きつい練習でも止めないメンタルの強さ」「練習の一つの意義を理解していること」だと言う。なぜきつい時に止めないで続けられるのか。その理由を本人に尋ねたところ、「きつい時こそ、もうワンステップ踏み込むことで強くなるから」と教えてくれた。

また、「この練習は何の役に立つのか」を理解した上で練習すると、漫然と練習する場合と比べて「効果が全く違う」と言う。

短距離走は個人競技だが、栗原君は、「仲間や後輩に強くなって欲しいから」「仲間やアドバイスの出し惜しみをしない。練習では積極的に声出しをし、きついときにはみんなを励まし、背中を押し、練習の質を高めてくれる、仲間想いの熱い男だ。真面目でしっかり者の栗原くんだが、クラスのムードメーカーでもある。行事で一発芸を披露したときは、「大会よりも緊張した」とのこと。ひょうきんな一面も持ち合わせる栗原君だが、

普段は仲間とふざけ合っているも、練習になるとスイッチが入り、練習モードに切り替わる。やるときはやる男である。迎えた8月19日、福島県での第49回全日本中学校陸上競技選手権大会。惜しくも決勝進出はならなかった。しかし、足首の怪我で決して万全な状態ではないなか、好きなマンガ「ブラッククローバー」の、きついときにいつも自分を鼓舞してくれたセリフ「今ここで限界を超える」が今回も後押ししてくれた。肉体の限界を超え、福岡県代表として並み居る強豪と堂々と渡り合った。成長期まったただ中の栗原君。無限の可能性を秘めた福智町のアスリートから、今後目が離せない。





平成20年生まれの14歳。金田ジュニアクラブで野球を始め、現在は嘉麻ボーイズ所属。ポジションはピッチャー。7月にポニーベースボール全日本選手権出場。

森謙二郎



ので、成長すればピンチでも押さえてくれると期待しているとのこと。森君に今後の抱負を聞いたところ、「更にも上を狙えるよう、決め球のスライダーを磨いて、頼れるエースを目指して頑張ります」と力強く宣言してくれた。



ポニーベースボール第48回全日本選手権大会初戦。2対2の同点の大事な場面でリリーフ登板したが、打ち込まれ3失点を喫し、初戦敗退。ほろ苦い全国デビューとなった。後日行われた交流戦では先発登板し、4回を投げた。「全国大会は普段とは緊張感が違っていた経験になった。全国大会で学んだことを今後にかかしていきたい」と言う森謙二郎君。新チームではエースでキャプテンになった。嘉麻ボーイズの原哲之監督によると、森君の持ち味は、「ハートの強いところ」。打ちこまれると頭に血が上るのが玉にキズだが、打たれても萎縮せず打者に向かっていくメンタルの持ち主な

Rising SUN from Fukuchi



料 理とゲームが好きで、元気でやんちゃな小学4年生。得意料理はハンバーグだそう。テコンドー一家に生まれ、物心ついたときから、テコンドーで遊んで

内村翼

平成24年生まれの9歳。昨年度全日本Jrテコンドー選手権大会3位。



いた。昨年の第14回全日本Jrテコンドー選手権大会で3位になった。今年は惜しくも緒戦敗退。叔父の内村嵐コーチによると、体が柔らかくキックの打点が高いのが内村君の武器。テコンドーでは、頭部へのキックのポイントが高いので、体が柔らかいと有利なのだそう。8月21日、大分での九州大会。小学4年生の部に出場した内村君は見事優勝。全国大会のリベンジを果たした。早くも次の大会に向け練習に余念がない内村君。得意技のトロチャギとキツチャギ（両方とも回し蹴りの一種）に磨きをかけ、虎視眈々と上位を狙う。

第61回田川郡民体育大会結果

硬式テニス

福智町屋内競技場

- 総合の部 [優勝] 福智町
- A級男子の部
ダブルス [3位] 甲斐大輔・桑畑広幸
- B級男子の部
ダブルス [2位] 内田晋平・内山拓也
- A級女子の部
ダブルス [2位] 甲斐由美・沼口湧子
- [3位] 甲斐美里・大坪(川崎町)

61

回目を迎える「田川郡民体育大会」が郡内各地で開かれ、郡内のアスリートが鎗を削りました。例年以上の猛暑のなか、福智町のアスリートも活躍。このページではその結果をお知らせします。

「郡」雄割拠の夏

水泳

福智町B&G海洋センター

- 一般の部 バタフライ [49秒30] (県大会出場)
梶原信子

ゲートボール

大任町上屋村多目的広場

- [6位] 福智町

弓道

福智町弓道場

- 総合の部 [2位] 福智町
- 一般男子の部 [優勝] 福智町
- 一般女子の部 [2位] 福智町

バドミントン

川崎町民会館

- 総合の部 [3位] 福智町
- 一般女子の部
ダブルス [3位] 谷口秀子・伊藤洋子
- 壮年男子の部
ダブルス [2位] 西村勇二・香川二郎

卓球

福智町体育センター

- 団体の部(表彰) [2位] 福智町
- 団体の部(実績) [2位] 福智町
- 一般男子の部 [2位] 都津川 泰宏

